

2023年2月から、幸せを運ぶアート楽器プロジェクトの第3弾が始動!ピアノを彩ってくれる八王子ゆかりのアーティスト、YORIKOさんと石賀直之さんがそれぞれの活動で向き合う「アートとデザインの力」について語ります!



石賀直之さん

対談

「みんなが輝く アートとデザインの力」

YORIKOさん



英国留学後、各地で地域の人々と作り上げるデザイン・アートプロジェクトに従事。土地の文化を多世代が交わる企画に変換し、にぎわい空間づくりに取り組んできました。想造楽工の立ち上げを機に株式会社ニューモア設立。デザインとアートそれぞれの良さを取り入れながら、仲間たちと全力投球中。

東京造形大学教授。美術教育を専門とし、音楽とアートに関するワークショップ研究及びプロダクト開発を行っている。音楽家としては、演奏活動を行いながら音楽院のジャズサックス科講師として指導を行っている。2016年に音楽と造形の総合ユニットONZOを立ち上げ、国内外を問わず様々な活動を展開している。

まずは、ご自身の活動についてお聞かせください。

石賀 以下、Y 小学校の教員経験があり、またジャズのサックス奏者でもあります。現在、造形大で教えており、「ONZO」という活動で子ども向けのアートのワークショップに取り組んでいます。僕自身が演奏をしている空間で、子どもたちは、絵を描く、踊る、遊ぶ、音楽を聴く…そのどれなのか分からないままやっているような、新感覚アートワークショップというか、ジャンルの分け隔てがない瞬間を子どもたちに取り戻すには…それが僕の活動のメインコンセプトです。

YORIKO (以下、Y)、私は、桑沢学園デザイン専門学校卒で、たしか、造形大学と姉妹校ですよーその後、渡英しロン

ドン芸術大学で現代アートを学びました。デザインから始まりアーティストになり、たいと数年イギリスで武者修行をしたあと、どちらかというと自分はデザインのマインドだなと結論が出ました。一昨年に小さなデザイン会社をつくり、そこで二つの事業をやっています。親子向けアートプロジェクト『おやこ小学校』と、障がいをお持ちの方がイラストレーターになりデザインを加えて完成させ、お仕事にする『想造楽工』です。

現在の活動にたどり着いた経緯、歩んできた道のりを教えてください。

石 学校の教員つて教科ごとに分かれてますよね。でも、子どもの頃には、そこが

あまり分かれていない。例えば給食を手に付けてパンとたたくとその音が面白くてみんなに広がっていき、歌になるというような感じで…。小学校の先生をやっている時にも充実感はあったのですが、もっと自由にいろんなことを学べる環境をつくり出せるんじゃないかと、実験的に探ってきたという感じがする。

Y 大人も子どもや色んな属性の人たちが混ざってモノづくりをするアートプロジェクト、というのが専門でしたが、アト自体を生業にする難しさを感じ、自分なデザインの方で計画を立ててみんなを取り組むことの旗振り役が合っているんだなと。いわゆるコミュニケーションデザインをやっていること…。それで今に至ります。

石 人と人を繋いでその場を創りだす、リレーショナルアート、みたいなのですよ。僕は自分自身は絵を描かないでアートに関わっていて、人と人とを繋ぐためにアートや芸術が力を発揮する可能性を考えてたのでとても共感します。

お二人の活動には自分と違う一つ、他者の表現、が関わっているという共通点がありますが、他者に対してどのような意識で取り組んでいらっしゃいますか?

Y 私の場合は、協働、というテーマをもって子どもや障がいのある方と一緒にモノづくりをしているんですね。子どもが無邪気さや魅力と障がいのある方々の独自の表現力ってやっぱりすごい。その力をもっと出してもらうために、ある程度の客観性だったりデザインの技術の視点を伝えて、お互いに持っているものを高めていって最終的にどちらも良い仕事をしたいなと思うようにしたくて。そういう意味では、誰に対しても対等にありたいという気持ちがあります。

石 僕は、教員歴が長かったのですが、

でも先生つばく振る舞いがちだったんです。そうすると、『あの人が計画してるんだ』とか、僕が何かを望んでいる感じが出ちゃうと思うんですよね。なら、人間じゃないものになるしかないなと…。この前は絵の具まみれの、豚になって、一言もしゃべらずふらふらしてるっていうことをやってみたんです。子どもはそれを見て『そんなものか』って(笑)。それくらい存在感を消したいんです。その意味で良くてきているなと思うのは、八王子にもたくさんある『自然』という環境です。木があって岩があって、子どもたちが飛び回ってみたい、何かを突然つくり出してみたい…。そういう自然な感覚を美術でつくり出していきたい。表現することの自由を味わってもらいたいし、そこに指導したりする人が居なくても良いようにしたいんです。

アート楽器プロジェクトの依頼が来た時、ピアノという楽器がキャンパスになると聞いてどのように思いましたか?

Y 個人的には違和感は全然なくて、アート×音楽つてたぶんとても相性が良いものですよ。最高の組み合わせだと思っています。

石 このプロジェクトを通して、楽器のもつある意味デジタルっぽい機能美のところに、自由な感じとか敷居の低さをつくり出したに良いなと思うんです。それに加えることによって、そのピアノが第二の人生を歩んでくれたら…。色んな人が自由に関われるようになったら、ピアノ自身も寄贈してくださった方も幸せになれるんじゃないかなと思います。

令和4・5年度 **アート楽器プロジェクトVOL.3** in 八王子アートフェスティバル(仮)

これまで、八王子音楽祭のイベントとして開催してきたアート楽器プロジェクトですが、令和4年度からジャンルの壁を超え、八王子音楽祭がアートフェスティバル(仮)にパワーアップ! アート楽器プロジェクトも、音楽と美術の垣根を超えて自由な発想でたのしめるプロジェクトとして、みなさまにお届けしていきます♪まずは、令和5年2月~3月にかけてピアノにペイントし、市内各所でお披露目する予定です。また、VOL.4に向けて使わなくなった楽器&アート楽器の寄贈先も随時募集中! 詳細は、二次元コードからご覧ください。



特集

アートでよみがえる楽器たち

思い出はたくさん詰まっているけれど、使われなくなってしまった楽器たちをアートで蘇らせて、再び活躍する姿をたくさんの方に見てもらいたい…そんな思いからスタートしたプロジェクトです。ペイントを手掛けるのは八王子ゆかりの、感性豊かなアーティストたち。今月は、アート楽器プロジェクトのこれまでの軌跡とこれからについてご紹介します♪

八王子音楽祭2018では、美術作家 中村眞弥子さんの手によって5つのアート楽器が誕生しました!

眠っていた楽器を アートで復活!

アートピアノ2台のペイント体験ワークショップを開催し、95名の方にご参加いただきました!



中村眞弥子さん



街中の演奏会で大活躍!

八王子市夢美術館や、セレオ八王子、横山町公園など、様々な場所で演奏されました♪



アート楽器を、必要としている人のもとへ…

音楽祭で活躍したあと、アートピアノ2台が市内の福祉施設とカフェに寄付されました。

八王子音楽祭2019では、画家 竹谷嘉人さんの手によって3つのアート楽器が誕生しました!

ジャズのセッション × ライブペインティング!

八王子音楽祭2019のテーマジャズならではの即興パフォーマンスで、躍動感あふれる唯一無二のアートピアノが生まれました♪ピアノ、サックス、ドラム、ダンスと ペインティングの斬新な組合わせ!



最後にマスキングテープをはがし、アートピアノが完成!!

竹谷嘉人さん



街中の演奏会で大活躍!

道の駅八王子滝山など、様々な場所でアートピアノが演奏されました。



必要としている人のもとへ…

音楽祭で活躍したあと、アートピアノ1台が市内のカフェに寄付されました。